

2014年8月18日

リコーWeb サイト企画「[西暦 2036 年を想像してみた](#)」第 4 弾公開 沖方丁さんが想像する未来

株式会社リコー(社長執行役員:三浦善司)は、Web サイト上の企画「西暦 2036 年を想像してみた」の第 4 弾コンテンツとして、時代小説「天地明察」やアニメ「攻殻機動隊 ARISE」の脚本で有名な作家の沖方丁(ウブカタトウ)さんが想像する未来を本日公開しました。ストーリーの挿絵は、ボーカロイド・オペラ「THE END」の映像を手がけた気鋭の映像作家 YKBX(ワイケービーエックス)さんによるものです。

昨年 8 月にスタートしたこの企画は、小説、マンガ・アニメ、ゲームで近未来を描く第一線のクリエイターの方々とコラボレーションし、自由な発想で西暦 2036 年を想像するものです。今回の第 4 弾の公開と合わせて本企画の Web ページをリニューアルし、さらに読みやすくなりました。

今後は、本日公開のコンテンツを含めて、未来の働き方についての短編ストーリー3 編や、沖方さんとリコーの研究者との対談を 9 月 24 日まで毎週火曜日(祝日の場合は翌日)に更新していきます。2036 年、人々はどのような場所で、どのような働き方、どのようなコミュニケーションをしているのか。クリエイターとリコーの研究者が描く未来について対話し、イメージーションを広げていきます。

毎週の更新情報はツイッターアカウント「[リコーの Web 特集](#)」でお知らせします。



「西暦 2036 年を想像してみた」第 4 弾、写真は対談、沖方丁さん(左) × リコーの研究者(右)



YKBXさんによるイラスト

Webサイト「西暦2036年を想像してみた」

<http://www.ricoh.com/ja/special/AD2036/>

ツイッターアカウント「リコーのWeb特集」

https://twitter.com/RICOH_SP

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、オフィス向け画像機器、プロダクションプリントソリューションズ、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービスなどを世界約200の国と地域で提供するグローバル企業です(2014年3月期リコーグループ連結売上は2兆2,369億円)。

人と情報のかかわりの中で新しい価値を生む製品、ソリューション、サービスを中心に、デジタルカメラや産業用の製品など、幅広い分野で事業を展開しています。高い技術力に加え、際立った顧客サービスや持続可能社会の実現への積極的な取り組みが、お客様から高い評価をいただいています。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「*imagine. change.*」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、下記をご覧ください。

www.ricoh.com/ja/